

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	09	01	01	0401	消防・救急救助充実強化事業	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-3	防災危機管理体制の充実			
	施策	4	救急救助体制の強化			
目的	消防・救急救助の充実強化					
対象	消防、救助隊員及び救急救命士					
意図	消防、救助隊員及び救急救命士の知識及び技術の充実強化を図る。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<p>○ 消防隊員の育成と消防体制の充実強化 学校入校 消防学校初任教育10人、初級・中級幹部科2人、上級幹部科2人、警防科2人 特殊災害科2人、消防大学校幹部科1人 警防実務研究会、北上川水質汚濁協議会、緊急消防援助隊訓練参加、活動資機材の整備 技能免許取得、緊急車両技能講習（大型1種免許、2級小型船舶操縦士免許取得）</p> <p>○ 救助隊員の育成と救助体制の充実強化 学校入校 消防学校救助科3人、 救助技術東北大会、全国救助隊員シンポジウム、活動資器材の整備</p> <p>○ 救急隊員の育成と救急体制の充実強化 学校入校・消防学校救急科（標準課程）5人、救急隊員（標準課程修了者）病院実習22人、 救急救命士の気管挿管実習3人、救急救命士病院実習（再教育）26人、救急医学会研修、 救急隊員シンポジウム、救急活動資器材の整備</p>						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
事業協力・協定		委託				
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
①	救急隊員シュミレーション訓練	回	計画	12	12	
			実績	12	12	
②	救助訓練	回	計画	80	80	
			実績	82	85	
③	救急・救助課程有資格者の養成 (消防学校)	人	計画	8	8	
			実績	9	8	
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
①	救急・救助資格者／警防員	%	目標	90.0	92.0	
			実績	89.4	84.0	
②	救急救命士資格取得者・薬剤投与 資格取得者出場率	%	目標	100.0	100.0	
			実績	97.7	99.5	
③						
成果指標 の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
出場する全救急車に、救急救命士の資格取得者が乗車するように目標値を設定したが、出張や勤務変更（年次休暇・特別休暇等）により、100%救急救命士搭乗には至らなかった。		
目的 妥当性	公共関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 消防・救急救助は市が行う業務であり、隊員の資格取得や救急救助資機材の取り扱いができる職員を養成する事業である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	<ul style="list-style-type: none"> 技術訓練を重ねることにより、隊員の技術向上に繋がる。 救急救命士を対象にした病院実習はもとより、救急医学会等の研修を重ねることで資質の向上が期待できる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	<ul style="list-style-type: none"> 消防・救助隊員、または救急救命士でなければ活動困難な特殊業務であり、削減の余地はない。 特殊業務で委託は考えられず、必要最低限のコストであり削減の余地はない。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
	<input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	<ul style="list-style-type: none"> 災害現場などにおける消防・救助・救急体制の充実及び強化は、市民の安全安心に繋がる事業であり適正である。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
	<input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
隊員の専門的資格知識と技術の取得、また、訓練による災害現場での技術の向上を図るためにも必要な事業である。		

平成 26 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-T	事業名
一般	09	01	01	0401	消防・救急救助充実強化事業

単位：千円

		25年度 決算額(A)	26年度 決算額(B)	27年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		22,475	24,418		1,943
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	22,475	24,418		1,943

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---------	------	-----------------

部経営方針における目標
消防力、救急・救助体制の充実強化を図る。

事業開始の背景・経緯
・災害事案が多様化しており、各種訓練の参加や研修会、講習会受講により技術向上を図る。
・救急隊員資格、救急救命士制度の創設及び救命士の特定行為処置拡大等による資格取得が必要となった。

事業概要
○ 消防隊員の育成と消防体制の充実強化
学校入校 消防学校初任教育10人、初級・中級幹部科2人、上級幹部科2人、警防科2人
特殊災害科2人、消防大学校幹部科1人
警防実務研究会、北上川水質汚濁協議会、緊急消防援助隊訓練参加、活動資機材の整備
技能免許取得、緊急車両技能講習（大型1種免許、2級小型船舶操縦士免許取得）
○ 救助隊員の育成と救助体制の充実強化
学校入校 消防学校救助科3人、
救助技術東北大会、全国救助隊員シンポジウム、活動資器材の整備
○ 救急隊員の育成と救急体制の充実強化
学校入校・消防学校救急科（標準課程）5人、救急隊員（標準課程修了者）病院実習22人、
救急救命士の気管挿管実習3人、救急救命士病院実習（再教育）26人、救急医学会研修、
救急隊員シンポジウム、救急活動資器材の整備

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

担当部署	部名	消防本部	課名	警防課	担当係長	小原正雄	内線	377
------	----	------	----	-----	------	------	----	-----

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

【消防隊員の育成と消防体制の充実強化】 9,573千円

○学校教育と研修・訓練への参加 5,008千円

岩手県消防学校 初任教育、初級・中級幹部科、上級幹部科、警防科、特殊災害科
消防大学校 幹部科
警防実務研究会、北上川水質汚濁連絡協議会
緊急消防援助隊北海道・東北ブロック訓練(高速道含む)に参加
東北自動車道事故対応訓練に参加

○緊急車両等免許取得 954千円

大型自動車第1種免許取得、2級小型船舶操縦士免許取得
小型移動式クレーン免許取得、玉掛け技能免許取得

○消防活動装備品 3,611千円

油吸着材、緊急消防援助隊用備蓄品・救急活動消耗品、消火薬剤、消防用ホース
ハイブリット専用検電チェッカー、ホース乾燥塔用ワイヤー、山岳救助用資材等
空気呼吸器用ボンベ、チェンソー、学校図書教材費

【救急隊員の育成と救助体制の充実強化】 2,972千円

○学校教育と研修・訓練への参加 281千円

岩手県消防学校救助科
全国救助隊員シンポジウム

○救助活動装備品 2,691千円

空気呼吸器(ボンベ除く)
学校図書教材費

【救急隊員の育成と救急体制の充実強化】 11,873千円

○救急隊員の学校教育 4,061千円

岩手県消防学校救急科(標準課程)
救急隊員(標準課程修了)病院実習
気管挿管病院実習・救急救命士病院実習
日本臨床救急医学会研修、全国救急隊員シンポジウム、消防実務講習会

○救急活動装備品 5,183千円

救急活動用消耗品、AED用消耗品、気管挿管用消耗品、救急用薬品、オゾン機器
消耗品、AED等バッテリー、救急搬送引継書印刷、学校図書教材費

○救急医療機器保守委託等 2,629千円

AED・人工呼吸器・自動胸骨圧迫器等医療機器保守、医療廃棄物処理委託、AEDリース
車両ETC使用料等